

令和
6年度

学校の教育目標

グローバルリーダー（Thinkglobally, act locally）の育成
～未来に向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成～

期末評価

		計画（5月1日）							期末評価（2月17日）					
資質・能力	学校の教育目標 実現に向けた【重点目標】	重点目標に係る目指すべき 子どもの姿となる 【達成指標】	達成指標 達成率	最終評価	前年度	達成指標を達成する または近づいたための 【重点的取組】	重点的取組に係る 具体的な 【取組指標】	担当者	取組指標の 達成基準 （S・A・B）	期末 評価	取組指標の 達成状況詳細	次年度に向けた総括 （○成果 ▲課題 ☆方向性）		
知識・技能	生きて働く知識・技能の習得	(1) 前期「全国学力調査」、後期「CRT検査」の知識・技能の正答率が全国平均以上 S：達成率120%以上 A：達成率100%～119% B：達成率100%未満	[全国学力調査] 6年生 【国語】 全国（正答率）67.8% 本校（正答率）82.0% 達成率 82.0/67.8 =121% 昨年度達成率=121%	S	S	①授業改善	授業者は、新大分スタンダードの視点に基づいた評価表を使用した指導教諭による授業観察と教科グループ内での学び合いによる授業観察を行い、事後に指導教諭等と振り返りを行う。	指導教諭	S：55回以上 A：37～54回 B：36回以下	A	指導教諭等による授業観察…36回 日常の授業観察・振り返り…17回	○計画的に各担任年間2回の授業観察ができた。 ☆日常の授業の巡回参観し、短時間で効率的な振り返りを行うことができたので、次年度も引き続き行う。		
			【算数】 全国（正答率）63.6% 本校（正答率）78.0% 達成率 78.0/63.6 =123% 昨年度達成率=121%	S	S		②体力向上	各学年は、「新体力テスト」で前年度課題のあった種目の改善に向けて、単元を開発する（既開発単元利用も含む）。	担任	S：7単元以上 A：6単元 B：5単元以下	A	単元開発 1年（1）2年（1）3年（1） 4年（1）5年（1）6年（1）	○今年度新たな重点項目を設定し、それに合わせて健康安全部を中心に各学年とも単元開発ができた。 ☆体育授業だけでなく、生活の中で取り組めることがないか考えていく。	
			(2) 「新体力テスト」の合計得点が全国平均以上 S：達成率110%以上 A：達成率100%～109% B：達成率100%未満	[CRT検査] 5年生 【国語】 全国比（達成率） % 【算数】 全国比（達成率） %	-	A	③自力通学	保護者は、児童の自力通学に対して励まし応援する。※「毎日」「時々」「全然」の内、「毎日」の割合	主幹教諭	S：90%以上 A：70～89% B：69%以下	A	<前期> 回答（331/500=66%） 毎日：269（81.3%） 時々：57（17.2%） 全然：5（1.5%）	<後期> 回答（327/500=65%） 毎日：274（83.8%） 時々：44（13.5%） 全然：9（2.7%）	○概ね保護者の協力は得られている。 ▲昨年より「毎日」の割合がやや下がっており、近隣でのお迎えの実態も見られる。 ☆引き続き粘り強く声かけを行う。
			(新体力テスト合計点) 5年 全国：男52.54 女53.93 本校：男53.81 女56.48 男子達成率：53.81/52.54=102% 女子達成率：56.48/53.93=105%	A	A	④指導助言		教育委員会関係者・大学教員は、授業・研究に対して指導助言を行う。	指導教諭	S：50人以上 A：28～49人 B：28人未満	S	県教委指導主事等20人 大学教授等25人 学校評議員5人 合計50人	○授業公開や実習生代表授業、校内研修など、多くの場面で指導助言を頂くことができた。 ☆引き続き、授業公開や校内研修などで指導助言を頂く場を設定する。	
思考・判断・表現	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力	(3) 前期「全国学力調査」、後期「CRT検査」の思考力・判断力・表現力等の正答率が全国平均以上 S：達成率120%以上 A：達成率100%～109% B：達成率100%未満	[全国学力調査] 4月実施（6年生） 【国語】 全国（正答率）67.8% 本校（正答率）82.0% 達成率 82.0/67.8 =121% 昨年度達成率=121%	S	S	⑤思考育成	担任は、思考ツールの主体的な活用につながる活動を行う。※活用アンケートで積極的に教科や生活の中で活用割合（3年生以上児童対象）	指導教諭	S：活用児童50%以上 A：活用児童21～49% B：活用児童20%以下	-	今後実施予定	○学年の発達や内容に応じた思考ツールを活用することができる。		
			【算数】 全国（正答率）63.6% 本校（正答率）78.0% 達成率 78.0/63.6 =123% 昨年度達成率=121%	S	S		⑥一般教養	保護者は、世の中や学校のことについて、子どもの考えを聞く。※「よく」「時々」「全然」の内、「よく」の割合	主幹教諭	S：90%以上 A：70～89% B：69%以下	B→A	<前期> 回答（331/500=66%） よく：226（68.3%） 時々：105（31.7%） 全然：0（0.0%）	<後期> 回答（327/500=65%） よく：237（72.5%） 時々：90（27.5%） 全然：0（0.0%）	○「よく」と「時々」を合わせると100%であり、保護者の協力が得られている。 ☆引き続き、学校だよりやホームページで学校の様子を伝えながら、啓発を行う。
			[CRT検査] 11月実施（5年生） 【国語】 全国比（達成率） % 【算数】 全国比（達成率） %	-	A	⑦外部連携	行政・大学教員・地域の方は、外部講師として授業を支援する。	指導教諭	S：延べ55回以上 A：延べ36～54回 B：延べ35回以下	S	行政関係14人 延べ10回 大学関係14人 延べ22回 地域・企業31人 延べ23回	○多くの外部講師の方々を招聘することができた。中には複数回に渡って協力いただける方もいた。 ☆人材バンクを更新しながら、引き続き幅広い方々に講師として支援していただくようにする。		
学びに向かう力・人間性等	グローバルな視点を持ち世界やふるさとに貢献できる人間性の涵養	(4) 「笑顔アンケート」において、自己他者肯定群の児童の割合が80%以上 S：達成率110%以上 A：達成率90%～109% B：達成率90%未満	[自己他者肯定群] 6月割合：486/599人=81% 達成率：81/80 =101% 11月割合：480/596人=81% 達成率：81/80 =101%	A	A	⑧生活指導	各学年は、3つの取組「あいさつ・掃除・履物揃え」について児童の意見を取り入れた手立てを講じる。	学年主任	S：手立て30以上 A：手立て10～29 B：手立て0～9	S	手立て 78 ・学年集会、学級会での話し合い ・写真や言葉による価値づけ ・成長ノート、振り返りシートを活用 ・実行委員による声かけ、振り返り ・アンケート、ポスター、マングラフト 等	○それぞれの学年の発達段階や特徴に合わせた取組をする中で、児童が意識して生活し、課題を解決する手立てを進んで考えることができている。 ☆引き続き、児童の意見を大切に取組を進める。		
			⑨学級経営				学級担任は、朝の時間に「褒め言葉のシャワー」と「フリートーク」を行う。※アセスアンケート90%以上達成を目指す（3年生以上で実施）。	指導教諭	S：90% A：80%～89% B：79%以下	A	アセスアンケート達成率 第1回 6月 割合82% 第2回 11月 割合82%	▲学年が上がるにつれ数値が下がるのが課題である。 ○が中学年では高い評価が見られた。高学年は6月に比べて11月の数値が上昇している。 ☆外部の方に指導していただくなど取組の充実を図り、よりよい学級経営と適切な指導を目指す。		
			⑩率先挨拶			保護者は、家庭内外で率先して挨拶を行う。※「毎日」「時々」「全然」の内、「毎日」の割合	主幹教諭	S：90%以上 A：80%～89% B：79%以下	S	<前期> 回答（331/500=66%） よく：305（92.1%） 時々：25（7.6%） 全然：1（0.3%）	<後期> 回答（327/500=65%） よく：302（92.4%） 時々：24（7.3%） 全然：1（0.3%）	○前期に比べてやや後期の割合は下がっているが、昨年度の割合（89.1%）を超えており、保護者の協力が得られている。 ☆引き続き啓発を続けるとともに、挨拶に加えて一言声かけができるよう呼びかける。		
			⑪学校公開			地域の方、大学関係者、保護者は、オープンスクールなど学校公開の機会に学校を参観する。	教務主任	S：700人以上 A：400～699人 B：399人以下	S	オープンスクール参加者数702名 保護者487名 受験希望者215名 （受付名簿記入者数）	○700名（名簿記入者数）を超える方に参観してもらうことができた。 ▲保護者と今年度の受験希望者のみを参観可能とした。地域に開かれた学校と安全な学校の両立をどうしていくか。 ☆保護者、大学関係者、受験希望者を対象にする方向で検討する。			
働き方改革の推進	働き方改革の推進	(5) 年間有給取得12日以上かつ職員（年間20日有給付与教職員対象）70%以上 S：達成率110%以上 A：達成率80%～109% B：達成率80%未満	[12日以上取得] 1月末時点：18/26人=69% 達成率：69/70=99%	A	S	⑫意識改革	三部会の部長は部会、統括学年主任は学年主任会を、設定した時間内に運営できるようにマネジメントを行う。※設定時間内の達成率	統括学年主任	S：80%以上 A：80%～80%未満 B：60%未満	S	三部会および学年主任会 設定時間内終了回数38/47（81%）	○計画をもとに効率よく話し合いを進めることが概ねできている。 ☆各部長や統括学年主任の計画のもと、学年部での話し合いを充実させながら、引き続き情報共有を図る。		
			[10日以上取得] 1月末時点：25/26人=96% 達成率：96/70=137%				⑬登校指導	保護者は、PTA活動の一貫として登校指導を行う。※「実施済」「未実施」の内、「実施済」の割合	主幹教諭	S：90%以上 A：80%～90% B：80%未満	S	<前期> 回答（331/500=66%） 実施済：244（73.7%） 未実施：87（26.3%）	<後期> 回答（327/500=65%） 実施済：302（92.4%） 未実施：25（7.6%）	○保護者の協力を得ながら実施ができた。 ☆引き続き、児童の安全のための協力と呼びかける。
			⑭外部意見			学校評議員は、年間3回開催の学校評議員会で働き方改革について意見を述べる。	主幹教諭	S：3回意見 A：2回意見 B：1回以下	A	学校評議員会 3回開催 第1回、第3回	○第1回と第3回で話題にし、意見を頂くことができた。 ☆引き続き、削減できた内容と時間を示しながら助言を頂くようにする。			